



〈雑録〉英國商政史ノ一節(1)

車谷，馬太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 8(1):93-110

(Issue Date)

1910-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051499>



英國商政史ノ一節（其一）

商學士 車谷馬太郎

小 引

商政史中最モ重要ニシテ亦中心點タルモノハ保護及ビ自由貿易ノ運動上及ビ論議上ノ爭ナリ然リ而シテ英國ハ其爭點ノ中點ニ位シ苟モ保護論ヲ口ニスルモノガリストヲ祖トスルガ如ク自由貿易ヲ標榜スルモノガ英國ヲ謂ハザルモノ鮮矣。然レドモ政策ハ一定不變ノ學理ニ非ズ、純理ノ上ヨリリストト英國ヲ是否スルコトハ抑モ事ノ本末ヲ誤レル甚シキモノナリ。是レ恰モアダム、スミスヲ去ル百十有餘年ノ後、世態遷リ事狀變リタル時ニ於テ猶ホ彼ノ後塵ヲ拜シテ

「メルカンチルステム」ノ攻撃ニ馳ルト其選ヲ同シウス。「メルカンチルシステム」ハスミスノ時ニ於テ百弊叢起シ、害アリテ益ナキ長物ナリシナリ此時ニ於ケル彼レガ攻撃ノ激烈ハ寔ニ當然ノ業ノミ。然ルニ今日ニ至リテスミスノ口吻ニ微フハ火鎮リテ後水ヲ注グニ如ケンノミ。凡ソ事物ノ發生ハ其發生スベキ必要アリテ發スルナリ。「メルカンチルシステム」ノ如キ文化史ノ一節トシテ之ヲ觀レバ其發生ノ使命ハ實ニ統一國家、國民經濟ノ準備タリシノミ。

今リストガ保護論ヲ稱ヘ英國ガ自由貿易ヲ採リタルモノ各其刻下ノ必要、事狀、狀態ニ驅ラレタルモノナリ。當時ノ獨逸ガ如何ニ保護ヲ要シ、英國ガ如何ニ之レヲ無用視シタルカハ少シク史ヲ緝クモノ、容易ニ首肯シ得ラルベキ所ナリ。豈リストト雖モ保護ヲ以テ總テノ時ト所ニ適用セラルベキ眞理タルベシトノ意ナランヤ。英國亦然リ。

然リ而シテ我邦ニ於テモ所謂關稅問題ノ名ノ下ニ穀物稅法ノ可否ニ就テ學者ノ議論ヲ上下スルモノ尠カラズ、予ノ見ル所ヲ以テ誤ラズトスレバ穀物稅ヲ否トスル者ノ所論ハ、之ヲ是トスル者ノ夫ニ比シテ遙カニ理論ノ正鵠ヲ得且ツ實際ノ利益多カルベキガ如シ、然レドモ政策ノ權ハ不幸ニシテ理ヲ談ズル學者ノ與ラザル所ニシテ政治家ノ掌中ニアルガ故ニ穀物稅ハ今日ニ於テモ尙ホ實施セラレツ、アリ。

固ヨリ此問題ハ純理ノ問題タラズ、現今ニ於ケル我國ノ狀態ニ鑑ミテ決ス可キモノ今予妄リニ理ヲ語ラズ、唯今ヲ去ル百年内外、同ジ問題ガ先進國タル英國ニ於テ既ニ討議セラレ、運動セラレタル當時ノ回想ヲ促ス。蓋シ之ヲ今日ノ我邦ト相照應セシメバ現下ノ穀物稅ハ果シテ克ク事宜ヲ得タルモノナリヤ否ヤヲ決定スルニ有力ノ證ヲ與ヘルモノナラズンバアラズ、是レ予ガモングレディエン氏ノ「英國ニ於ケル自由貿易

運動史」ヲ藉リテ茲ニ小譯述ヲ試ムル所以ナリ。茲ニ一言スベキハ當時ニ於ケルマンチエスタノ商工業者ナリ。彼等颺言シテ曰ク、我等ハ保護ヲ要スルモノニ非ズ、保護ニヨリテ漸ク支持シ得可キガ如キ者ハ國家ノ富ニ效驗スル所以ナラズシテ却テ其膏血ヲ絞ル寄生蟲ノミト、言矯激ナリト雖モ元氣當ル可カラズ。我邦ノ商工業者ヲシテ之ヲ聞カシメバ果シテ奈何。否當時ノ英國民サヘモ之ヲ以テ一ノ囁語ナリト誤解セシモノ多クナリキ。吾人ハ一コブデンノ尊キ所以ヲ解スル能ハズ。彼レノ雄トオト辯トヲ以テスルモ彼等ノ後援ナクンバ亦如何トモスル能ハザリシナラン、英國ノ今日アル一ニマンチエスター商工業者ノ意氣ノ賜ナリ。

予ハ穀物稅法ノ可否ヲ論ゼズ、寧ロ我邦ノ商工業者ガ之レニ對スル態度如何、換言スレバ彼等ハ農業者ノミノ保護ニ反對スルニ於テ自ラ蒙ル可キ保護ヲモ拒絶スルノ勇氣アリヤ否ヤヲ知

ラントスト切ナリ。何トナレバ政策ハ理ニ非ズシテ之レヲ行フ人ニアリ、否ナ之ヲ施サル、國民ニ在レバナリ。

因ニ記ス、本篇緒論ハモングレデイエ氏ノ著ヲ編纂シタルギビンズ氏ノ一文ニシテ、其「メルカンチル、システム」ヲ論ズル僅ニ『時ニ或ル事狀ノ許ニ於テハ誤レルモノニアラズ』ト謂ヒタルノミニシテ多クハアダム、スミス其儘ノ論鋒ヲ用ユル等予ノ服セザル所多シト雖モモ氏ノ本文ヲ讀ムデ便利多キヲ以テ茲ニ并セ載スコトトセリ。

緒論、十九世紀以前ニ於ケル自由貿易運動

古代自由貿易論者——條約——ウヰリヤム・ピット——アダム・スミス——ウヰリヤム・ハスキツソン

穀物税法ノ撤廢ニヨリテ勝利ヲ博シタル自由貿易政策ノ主義ハ十九世紀ノ二十年代ニ於テ突

然勃起シタリト信ズルハ大ナル誤リナリ。其因襲極メテ遠ク、前代ノ經濟學者並ニ政治家ノ研究討論ノ結果トシテ其思想ノ裡ニ養ハレ來リタル產物ナラズンバアラズ、既ニ中世紀ニ於テ英國ノ市場ニハ諸外國ノ商人入り來リ、當時ノ拘束の經濟制度ノ許ニ於テ尙ホ自由貿易乃至自由ニ商業取引ヲナスノ特權ヲ得ル事ニ力ヲ盡シタリ。降テ十六世紀ニ至リ英國商人ハ此問題ニ就テ一時論壇ヲ騷ガセタリ此時ニ於テハ「マーチアント、アドベンチュアラ」其他外國貿易ノ大部分ヲ獨占シタル大商業會社ノ特權ヲ全廢セン事ヲ熱望シタリキ。又輸入貿易ノ自由、千六百五十年ノ航海條例並ニ之ニ關スル保護の方策ノ撤廢等ヲ鼓吹シタルロヂアー、コーク氏（千六百四十三年—九十六年）ノ如キ其論鋒ノ銳利ナルコブデンモ此上ヲ出デズ。而シテ十八世紀ニ於テハ輸出入貨物ノ上ニ課セラル、各種關稅ノ輕減又ハ撤廢ヲ論ズル自由貿易論者ノ出現ヲ見

タリ、實ニ「メルカンチル、システム」ノ行ハレツツアリシ時代ニ於テモ尙ホ之レヨリ起ル不利益ヲ排撃シ、之ヲ緩和又ハ全廢スルノ却テ利益多キヲ指摘シタル輩ニ乏カラザリキ。然レモ自由貿易運動ガ其旗色ヲ鮮明ニシ來リタルハ十八世紀ニ於ケル大通商條約ヲ以テ始メトス。即此世紀ニ於テハ英國ノ商業政策上永ク紀念タルベキ三大通商條約ヲ締結シタリ。千七百三年葡萄牙トノメスウェン條約千七百十三年ノウトレヒト條約、千七百八十六年佛國ト結ビタルウキリアムビット條約、世稱シテエデン條約ト謂フモノ即チ是レナリ。

メスウェン條約ハ未ダ多ク「メルカンチル、システム」ノ臭味ヲ脱セザルモノ、千七百八十六年ネクス氏ガ謂ヒケルガ如ク英國商業政策ノ謬源トセラレタル者ナルガ故ニ從來アダム、スミスニヨリテ總テノ經濟的害毒ハ此中ニアリト道破セラル、ニ至タルモノナリ。然リト雖モ前代ニ

於ケル英國ト葡萄牙トノ關係ニ比スレバ此條約ニヨリテ持來サレタル進歩ハ決シテ尠少ト云フベカラズ。ウトレヒト條約ノ第八第九條ハ之レニ比スレバ更ラニ大ナル進歩アリ、然レドモ之レガ爲メ英佛間ノ自由貿易ヲ促進シタルガ爲メ不幸ニシテ當時ノ商業界ニ於テ激烈ナル反對ヲ受ケ朝野ノ士克ク之ヲ獎推シタルニ拘ハラズ遂ニ撤廢セラレタリ。如此撤廢セラレタルハ事實ナリト雖モ此世紀ニ於テ自由貿易思想ノ發達シタルハ牢乎トシテ疑フ可カラズ此等ノ第三條約即チウキリアム、エデン氏(千七百四十四年—千八百十四年、後ニロードオー克蘭ドトシテ貴族ニ列セラル)ノ巧妙ナル手腕ニヨリ締結セラレタルエデン條約ハ大經濟學者アダム、スミスノ教ニ則リタル者トシテ推獎セラレタルモノナリ。而シテ茲ニ注意スベキハ嘗テウトレヒト條約ニアリタルト同ジ條項ガ此時ニ至リテ何等反對ノ聲ヲ惹起セザリシコト是レナリ。此條約

ガ實行セラレツ、アリシ時期ハ夫ガ極メテ成功シタルコトヲ示シタリト雖モ不幸ニシテ佛蘭西革命ノ結果、英佛ノ平和破ル、ニ至リテ此條約モ不時ニ消滅スルニ遇ヒタリ

ウキリアム、ビットガ自由貿易主義政治家トシテノ效ハ嘗ニ此條約ヲ克ク運用シタルガ故ノミニアラズ、彼ハアイヤ、ランドトノ貿易ニ於テモ貿易ノ自由ヲ障害スベキ多クノ煩鎖的制限ヲ撤去センコトニ盡力シタリ乍併此舉ハ近眼ノ商人等ノ反對ヲ蒙リ充分ノ成功ヲ見ル能ハザリキ。

乍併吾人ハビットノ施政時代ヲ叙スルニ當リ其産業ニ關スル學說ハビットガ政治的行動ニ大影響ヲ及ボシタル不世出ノ大濟經學者ヲ記セザル能ハズ、アダム、スミス即チ是レナリ。(千七百二十三年—千七百九十年)實ニ自由貿易主義ノ急激ナル發達ハ其著富國論(千七百七十六年)ニ負フ所蓋シ鮮シトセズ、固ヨリスミスノ學說

ノ裡ニハ前代ノ經濟學者ノ說ヲ踏襲シ承繼スルモノ無之ニ非ズト雖モ夫ガ自由貿易ノ真髓ヲ確定シ闡明シ百年後近世ノ自由貿易論者ニ基礎ヲ與ヘタル確固不動ノ說明ニ至リテハ其效決シテ沒スベカラズスミスガ保護貿易ニ反對シタル理由ハ蓋シ二個ノ大原則ニ基ク、即チ

(一)貨幣ハ單ニ國民間竝ニ個人間ニ於ケル交換ノ媒介物ノミ。

(二)分業ノ原則ハ之ヲ國際間ノ商業及産業ニモ適用セラル、モノナルコト。

「メルカンチル、ジステム」ハ「無益有害ナリト謂ヒタルスミスノ言ハ酷ニ失スベキモ夫ガ少クモ或ル一點ニ於テ誤リタル基礎ノ上ニ立チタルハ爭フ可カラザルナリ。何トナレバ之レヲ唱導スルモノハ貨幣ヲ以テ富ノ主ナル形態ナリトシ從テ一國ノ富ハ單ニ金ト銀トノ多量ナルコトニ於テ成立スルモノトナセバナリ、貿易表ガ貴金屬ノ流出スルモノニ比シテ流入スルモノ多キヲ示

ス(又ハ示スガ如ク見ユル)ニアラザレバ一國ノ繁榮ヲ來ス所以ナラズト考ヘタリ。故ニ貿易表ニ於テ順ヲ得ント欲セバ勢ヒ其輸出ハ輸入ヲ超過セザル可カラズ。然リ而シテ此狀態ヲ維持セントスルニハ獎勵金ヲ下附シテ輸出ヲ獎勵スルト同時ニ外國品ニハ稅ヲ課シテ之レガ輸入ヲ削減セザル可カラズ。換言スレバ彼我貿易ノ間ニ不必要ナル妨害物ヲ設ケザル可カラズ。固ヨリ

凡テノ誤謬ニ伴フ性質トシテ此政策モ極端ニ遂行セラレタルモノニシテ時ニ或ル事情ノ許ニ於テハ誤レルモノニアラズト雖モ十八世紀ノ末葉ニ至リテハ是レ既ニ英國ノ商業ニハ全ク無用ノ長物タルニ至リ之ニ關スル數多ノ規則ハ唯恐ルベキ妨害タルノミナリキ。此制度ノ無益有害ナルヲ論駁スルニ力ヲ餘サバリシハアダム、スミスナルコトハ前ニモ述ベタリ。尙且ツ氏ハ國際

間竝ニ個人間ニ分業ノ法則ヲ適用スルコトニヨリテ恰モ個人ガ勞働ノ已ニ最モ適シ且ツ利益多

キモノヲ選ビ能フガ如ク國際間ニ於テモ其地味地理的地位、氣候又ハ貨物ヲ生産シ製造スルニ於テ各自ノ國民技能ヲシテ最モ適當シ且ツ利益アル方面ニ使用スルコトヲ得セシムモノナリ。

是レ明ニ國際貿易ノ最モ自然ナル道ニシテ各國ハ最適最利ノ物ヲ生産シ其生産シタル所ノモノヲ以テ自國ニ生産スルコト能ハザルモノ又ハ生産スルコト困難ナルモノニシテ且ツ必要トスル所ノモノヲ得バ各自ガ其要スル總ノモノヲ自ラノ手ニヨリテ生産シ又ハ他國ヨリ之ヲ稜得スル道ヲ困難ナラシムルニ比シ其利ノ莫大ナルコト彰々タリ。

個人間又ハ地方間ニ行ハル、分業ハ技術ヲ進歩セシメ時ト勞力ノ節約ヲ來スモノナリ、而シテスミスガ論ゼシ如ク此同ジ結果ハ國際間ノ分業ニ於テモ等シク見ル事ヲ得可キナリ。即チ「各國ハ己レニ適スルモノヲ生産シ是ヲ以テ自由ニ交換スルトキハ兩者互ニ利益ヲ受クベシ

アダム、スミスガ是等ノ點ヲ指摘シテヨリ百
年ヲ經過シタル今日(千八百九十七年)ニ於テ
モ此二大原則ノ必要ハ昨モ今モ變ハルコトナシ
其當時ノ保護論者ノ誤謬ノ大部分ハ貨幣ノ職分
ニ關シテ其見解ヲ誤リ又各國間ニ於ケル自然ノ
分業ヲ破壞セント欲スルニ基ク、各國ノ商業ハ
畢竟スルニ貨物ト貨物トノ交換ニシテ金銀ハ唯
其交換ノ媒介タルニ止マルコトハ之レヲ明瞭ニ
示シ難シ、何トナレバ賣買ノ復雜ナル狀態ハ往
々ニシテ眞事實ヲ掩蔽スレバナリ二國間ニ於テ
貨物ト貨物トノ交換其多キヲ占ムルニ至レバ
(此事個人ニ就テモ亦然リ)貿易ハヨリ自然ニ行
ハレタルモノニシテ此取引ニ關係シタル雙方ハ
共ニ莫大ノ利益ヲ享受スベシ。稅表ヤ、關稅ヤ
輸入稅ヤ、獎勵金ノ如キ唯自由ニ行ハルベキ交
換ニ無益ノ障礙ヲ與フルノ外何事モ爲サルベ
シ、固ヨリ是等ノ中國庫ノ收入ヲ増進シ又ハ政
治上ノ關係ヨリ必要ナルモノアリト雖モ尙ホ設

クルコト少ケレバ、夫レニ應ジテ貿易ハ順境ニ
向フベキモノナリ。分業ニ關シテモ亦然ラザル
ヲ得ズ、故ニ保護稅ニヨリテ不自然ナル產業(他
國ヨリ有利ニ且ツ容易ニ得ラルベキモノ)ノ支
持スルヲ止メ、各國ヲシテ能ク其已ニ適スルモ
ノヲ生産セシムルニ如カズ。然リベンネビスノ
頂上ニ於テ硝子室ヲ設ケ人工的ニ溫度ヲ與フレ
バ完全ニ小麦ヲ生ゼシムルコトヲ得ベシ、乍併
精神ニ異常ナキ以上ハ、生活ノ爲メニ誰カ如此
ノ愚ヲ演ズルモノアラシヤ何トナレバ其得ラル
ベキ結果ハ其費サレタル苦痛勞力ト到底比較シ
得ベキモノニアラザレバナリ。此論理ハ一貨物
ガ他國ニ於テハ容易ニ生産シ得ラル、ニ拘ラズ
保護稅ヲ高キ價ヲ拂ヒ自ラ之レガ製造ニ從事
セントスル國ニ適用スルコトヲ得ベシ。故ニ曰
ク最モ健全ナル貿易ノ制度ハ最モ克ク自然ニ從
フノ制度ナリ、而シテ最モ自然ナルモノハ最モ
自由ナルモノナラザル可カラズ。生産ニ於テモ

交換ニ於テモ此理淪ルコト無シ、アダム、スミス曰ク『凡テノ國ガ一度其輸出入ヲ自由ニ放任スル制度ヲ採用センカ此大陸ヲ分チ有スル各國ハ恰モ是レ大帝國ノ各地方タルガ如クナルベシ』ト

然リト雖モ此アダム、スミスノ教ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ到底其儘ニ實現シ得ザルハ明ナリ、現ニ吾人ガ前述シタルガ如ク富國論公ニセラレテ後十年ウキリアム、ビットハ千七百八十六年佛國ト通商條約ヲ締結スルニ當リスミスノ所論ヲ實際ニ行フノ機會ヲ捕ヘタリ、然レドモ是レハ不幸ニシテ千八百十五年ノ平和條約ニヨリテ終ヲ告ゲタル英佛間ノ大戰爭ニヨリテ水泡ニ歸シ、エデン條約ノ時ヨリ算スレバ恰モ四十年ヲ經過シタルヲ以テ英國商業政策ハ平和克復ノ後ニ於テ、舊條約ヲ再ビスルノ狀態ニアラザリキ。

然ルニ千八百二十三年ウキリアム、ハスキッソ

ンガ商務省長ニ任命セラレタルハ自由貿易運動ニ關シ一新時期ヲ開拓シ舊保護制度ハ爲メニ一大痛撃ヲ受ケタリ。(ハ氏其他ノ政治家ガ如何ナル方法手段ヲ採リタルカハ次章ニ於テ詳述ス)

乍併茲ニ注意スベキハハ氏ガ任命セラル、ニ先ツコト三年嘗テ一度ハ自由貿易主義ニ對シテ反對ノ箭ヲ放チタル商業界ニ於テ此主義ガ稍ヤ認識セラル、ニ至リタルコト是ナリ。之レ自由貿易主義ガ大發展ヲナシタル好箇ノ證據ナラズンバアラズ、即チ千八百二十年ロンドン商人ハ一請願書ヲ提出シタリ、其內容ハ國庫收入ノ目的ニアラザルモノ即チ保護的性質ヲ帶ビタル總テノ關稅ト共ニ貿易ヲ制限スベキ一切ノ法規ノ撤廢之レナリ。又エデンボラーニ於ケル重ナル商人モ之レト同性質ノ請願ヲナシタリ、於茲乎政府ハ總テ是等ノ請願ニ對スル調査ヲ遂グル爲メ政府委員ヲ設ケタリ、而シテ政府委員等ガ調査シタル結果ニ關スル報告ハ商人ノ自由貿易主

義ト全ク其意見ヲ一ツニシタリ此ノ如キハハ氏
ガ此主義ノ或部分ヲ實行スル機會ヲ得タル時ニ
先ツ數年ノ狀態ナリキ。(以上ギビンズ氏)

第一章 千八百二十四年—

千八百二十六年

千八百二十四年ニ於ケル英國ノ商業制度——内國産業ハ
悉ク外國トノ競争ニヨリ保護セラレタルコト——各外國
品ニ對スル輸入税——千八百十五年並ビニ千八百二十二
年ノ穀物條例——航海業ニ關スル法令——國民ノ狀態——
千八百二十五、六年ノ激烈ナル恐慌

千八百二十四年ト千八百四十九年トノ間ノ二
十五年間ニ於テ英國ノ商業政策ハ著シキ改革ニ
遇ヒタリ

千八百二十四年迄ハ英國ノ制度ハ嚴格ナル保
護ノ方針ヲ採リタリ、即チ吾人ハ食料ニ關スル
外國品ハ總テ輸入スルコトヲ禁ゼラレ、然ラザ
ルモノモ非常ナル輸入税ヲ課シタルガ爲メ外國
貨物ヲ輸入スルコトハ實際ニ於テ極メテ困難ナ

リシナリ。又航海條例ニヨリ外國貿易ニ於テハ
英船ヲ使用セザル可カラザルヲ以テ、外國貿易
ハ其實行極メテ困難ナリキ。然ルニ千八百四十
九年ノ終ニ臨ミ英國ハ全ク反對ノ政策ヲ採用シ
タリ、即チ(特別ノ目的ヲ有スル少數ノモノヲ
除キテハ)穀物ハ總テ無税ニテ輸入スルコトヲ
許サレ、其他大部分ノ外國貨物ニ對スル輸入税
モ撤廢セラレタリ、又之レト同時ニ英國ノ隆盛
ハ一ニ懸リテ之レニ在リトサヘ思ハレタル航海
ニ關スル舊法規モ悉ク廢止セラレタリ。

如此ハ其善惡ハ暫ク措キ破天荒ナル變化ト謂
ハザル可カラズ、然リ而シテ此大變化ヲ來サシ
メタル論者ハ其所說ノ確固不動ナルコトヲ信ズ
ルヤ極メテ厚カリキ、何トナレバ變化ノ結果ハ
觀面ニ現ハレ來リテ直チニ論者ノ責任ヲ問フ可
ケレバナリ。而モ其當時迄帝國ノ運命ヲ支配シ
來リタル政策ヲ根本的ニ且ツ極メテ急激ニ撤廢
スルコト如此ハ寔ニ空前ノ事業ナリ、於茲、重

要ナル人士ノ反對亦盛ニシテ、其失敗ニ終ル可
キコトヲ豫言シタルモノモ尠カラザリキ。

想フニ此ノ如キ斷行ノ基礎ハ之レヲ經驗ニ求
メタルニ非ズ又他國ノ模倣ニモアラズ何トナレ
ハ他ニ例ノ求ムベキモノアラザレバナリ、蓋シ
之レ思想家ガ其書齋ニ於テ丹精ヲ凝ラシタル理
論ニ依頼シタルモノナリ。思想家ハ制限的政策
ノ有害ナルヲ指摘シ商業自由ノ政策ヨリ湧出ス
ベキ利益ヲ擧ゲテ之レヲ推獎シタリシナリ、如
此科學ノ理論ガ政府ノ施政ニ應用セラレタルハ
英國ヲ以テ其陳吳トスベク、永ク英國ノ誇リト
スベキナリ、乍併夫ガ果シテ眞理ノ原則ニ築カ
レタルモノナルヤ否ヤハ之ヲ施シタル後ニアラ
ザレバ具象的成功ヲ期スベカラザルガ故ニ頗ル
危險ノ業ト云ハザルヲ得ズ。唯夫レ自由貿易主
義ハ彼等ノ理想トスル所、彼等ハ採リテ之ヲ政
策ノ上ニ應用シタルモノナリ。故ニ彼等ノ行動
ハ英國ノ商業政策史上ニ時期ヲ劃シタルモノナ

リ。(茲ニ聊カ支葉ニ涉ルモ其詳細ヲ記スルハ却
テ興味深カ、ランカ)

吾人ハ以下少シク自由貿易制度ヲ奉ズルモノ
ト奉ゼザルモノトノ間ニ行ハレタル爭及兩派ノ
陣頭ニ立チテ采配ヲ揮ヒタル首領ヲ記述シ又併
ハセテ其一勝一敗シタル跡竝ビニ此制度ニ援助
ヲ與ヘタルモノト反對ノ箭ヲ放チタルモノトヲ
述ベ以テ英國ノ繁榮ト進歩ハ此制度ノ事實上ノ
勝利ノ結果ナルベキコトヲ公平且ツ用意周到ニ
研究シ自由貿易論者ノ爲メニ萬歲ヲ呼バン
トス。

政治的革命ハ血ヲ流サルノ故ヲ以テ夫ガ現
在ニ遠ク又ハ重要ナラズト謂フコトヲ得ズ戰場
ニ於テ武裝セル軍人ガ互ニ鎗ヲ銷ルト同ジ程度
ノ利害關係ハ目前ニ政治的方策ヲ決定スル理論
ノ爭ヒニ於テモ亦等シク認メザルヲ得ズ。實ニ
議會ニ於ケル討論ハ之ヲ爭鬭ニ比スベク、此場
合ニ於テハ(其他ノ爭ニ於テモ然ルガ如ク)人數

ノ多キハ其勢力ヲ盛ニスル所以ナリト雖モ其首領ガ巧妙、雄健ノ辯ト感銘ノ辭トハ往々ニシテ其效果著シキモノアリ。而シテ議會ノ爭ニ於テ得タル結果ハ概シテ其國將來ノ運命ニ影響ヲ及ボス上ニ於テ血ヲ流ス戰ニ於テ得タルモノヨリ遙カニ廣ク且ツ有力ナルモノナリ。

千八百二十四年ニ於ケル財政ノ法規ハ英國ノ外國貿易ヲ制限スルコト甚シキモノアリ。

(一)非常ナル輸入税ヲ支拂フニアラザレバ(時トシテハ頗ル過重ナルモノアリ)一ノ外國貨物ヲモ得ルコト能ハズ又全ク輸入ヲ禁止セラレタルモノモアリタリ。其ガ原料品ナルト製造品ナルト又日用品ナルト奢侈品ナルト又夫ガ綿ノ如ク大量ノモノナルト「オルキラ」ノ如ク少量ニ輸入セラル、モノナルトハ問フ所ニアラズ。總テ税關ヲ通過シ重キ課税ヲ負ヒタルモノニアラザレバ英國人ハ一ノ外國品ヲ得ルコト能ハザルナリ、實ニ合衆王國ノ關稅表ハ世界產物ノ好箇

ノ辭典タルノ觀ヲ呈シタリ。而シテ是等ノ貨物ヲ評價シ税ヲ徵收スル爲メニハ津々浦々ノ一魚村ニ至ル迄稅關ヲ設ケ之レニ從事スル役員ノ數ハ驚ク可キ多數ニ上リタリ、即チ關稅署長、副長、書記、試驗官、徵收官等枚舉ニ遑ナシ。

如此設備アルニモ拘ラズ、一方ニハ税ヲ免カレント密輸入ヲ企圖シ之ヲ常識ノ如クニスル者ノ數ヲ増シタリ、此不法ノ徒ハ罰セラレタリト雖ドモ到底其後ヲ絶ツニ至ラザリキ。密輸入ヲ防止スル爲メニハ莫大ナル費用ノ許ニ巡視船隊徵收官、海岸衛士ナド設ケラレタリ、彼等ハ勤務怠リナク時ニハ密輸入者ト衝突シテ格闘ヲ爲シ、血ヲ流スコトサヘ珍カラザリシト雖モ目的ハ遂ニ達シ得ラレズ、禁制品ノ貿易ハ闇々裡ニ行ハレ、財政改革ニヨリテ溫和適切ノ方法ヲ採リテ之ヲ根絶スルニ至ル迄遂ニ止ムコト無カリキ。

(二)千八百二十四年ニ於テ外國ノ小麥ハ英國

全體ヲ通ジテ其平均價格一「クオター」ニ付七〇志ニ達スル迄ハ全ク其輸入ヲ禁ゼラレタリ。價格此點ヲ超過シ而シテ價一「クオター」ニ付八五志ニ達スルキハ一「クオター」ニ付五志二片ノ稅ヲ課シテ其輸入ヲ許可セリ。此穀物條例ハ千八百二十二年ロード、リバプール施政ノ時ニ於テ實施セラレタルモノニシテ一「クオター」ニ付七八五志以上ニ至リタル時ハ何等ノ救助ヲ與ヘザルモノナリ。故ニ八〇志ニ達スル迄ハ全然外國小麥ノ輸入ヲ禁止シタル以前ノ法制ニ比スレバ地主ヲ保護スル事有力ナリト謂ハザルベカラズ、故ニ小麥ノ價ハ一「クオター」ロン、ローフ」ニ付一志四片ニ當ルモノナリ。此舊穀物法ハ千八百十五年ニ議會ヲ通過シタルモノニシテ其當時ニ於ケル民間ノ憤恚ハ極點ニ達シタリ。即チ暴動者ノ集合各所ニ行ハレ兵力ヲ以テ之ヲ解散セシムル程ナリキ、又此案ノ第三議會ガ大多數

ノ贊成ヲ以テ議會ヲ通過スル時ノ如キ下院ハ護衛ノ兵ニ擁セラル、ノ奇觀ヲ呈シタリ。然ルニ全國ヲ犧牲ニシテ利益ヲ一階級ニ與ヘタル此亂暴ナル方策ハ踵ヲ廻ラスニ違アラズシテ其必然ノ結果ヲ顯ハシタリ、即チ凶作兩三度繼續スルヤ小麥ノ價ハ著シク暴騰シタリ、千八百十六年十二月ニ於テハ一「クオター」ニ付百三志翌正月ニハ百四志千八百十七年六月ニハ百二十志八片ニ上騰シタリ。

固ヨリ此格外ナル物價ト輸入稅ノ免除ハ外國ヨリ大ナル供給ヲ致サシメタルハ疑ヒナキモ其購入及積送ノ機關ノ缺如シタルガ爲メ其入り來ルニ際シテハ極メテ徐々ニシテ其需要ノ大ナルニ比シ供給極メテ寬漫ナルト共ニ其需要ノ減少タル時ニ於テ却テ餘分ノ大量ノ流入スルヲ見タリ。然ルニ他方ニハ恰モ外國小麥國中ニ充滿スルニ至リ潮流ハ一變シテ小麥ノ價格ハ漸次下落シ始メタリ。實ニ英國ニ於テハ此時ヨリ豐作

ニ後シタリシナリ。千八百二十一年ニ於ケル平均價格ハ一ク「オター」ニ付五十六志トナリ、其十二月ニハ三十八志八片ニ降レリ。食料價格ノ變化ノ甚ダシキ驚ク可カラズヤ。アワレ如此狀態ノ下ニアリテハ如何ナル國モ如何ナル商業モ榮ヘ可キヤハ。千八百十七年ニ於テハ幾百萬ノ勞働者ハ百十二志ノ小麥ニヨリテ頻死ノ境ニ陷リ千八百二十一年ニ於テハ農家ノ大部分ハ三十九志ノ小麥ニヨリテ没落ノ運命ニ泣ク（彼等ノ地代ハ小麥ノ價ニヨリテ決セラル、ガ故ニ）變化ノ急激言語ニ絶セリ。然リ而シテ此場合ニ於テ國中ノ大多數ヲ喜ハセントセバ農家ハ遂ニ其立場ヲ失フ可ク農家ヲ保護セントセバ萬民飢ニ泣カザルヲ得ズ、事態是ヨリ不幸ニシテ且ツ不自然ナルモノアラズ。

千八百二十二年ノ始メニ於テハ商業ノ不振沈滞其極點ニ達セリサレバ當年二月五日議會開會ニ際シ國王ガ述べ給ヘル演說ノ要點ハ如何ニシ

テ這箇農業ノ不振ヲ救フ可キカニ存シタリ。於茲乎一方ニハ高キ輸入税ヲ存シテ農家ヲ保護シ他方ニハ從來ノ八〇志ニ代ヘテ「ク「オター」ニ付七〇」志ニ至リタル時ヨリ（高キ税ヲ支拂ヒテ）輸入ヲ許可シ以テ一般消費者ヲ救フ二重ノ目的ニテ千八百二十二年ノ穀物條例ハリバプール公ニヨリテ發布セラレタリ。然ルニ此條例ハ其用ノ大部分ヲ失シ千八百二十八年ニ至リテ廢止セラレタリ、ソハ此期間ニ於テ穀價ハ七〇志以上ニ上騰シタルコトナク從テ穀物ノ輸入絶ヘテ之レ無カリケレバナリ。然ルヲ以テ本條例ハ全ク輸入ヲ禁止シタルモノト其選ヲ異ニセザリキ。千八百二十四年ノ穀物取引ハ實ニ如此法令ノ下ニ行ハレタルモノナリ。

(三) 千八百二十四年ニ於テ實施セラレアリシ航海條例ニ據レバ總テ外國貨物ハ唯英船乃至其貨物ヲ生産シ輸出スル國ノ船ニアリテ輸送セラレタルモノ、ミ、輸入スルコトヲ許シタリ、

カルガ故ニ殖民地貿易ハ殆シト皆英船ニヨリ媒介セラレタリ。此令ハ千八百十五年ノ當時ニ存シタルモノニ比スレハ稍ヤ緩ヤカニナリシモ其英國船舶所有者ヲ益シタルコトハ却テ勝レリ。

此制限ハ輸出品ニモ及ビタリ即チ總テノ英國貨物ハ英船ニ託スルニアラザレハ輸出スルコトヲ得ザルモノトシタルコト是レ也。然リ而シテ英國ニシテ此法ヲ採用スレハ外國モ亦復讐的ニ之ニ倣フガ故ニ其相互ノ損害ト煩惱ノ甚シキハ蓋シ當然ノ結果ナリ。即チ英船ガ英貨物ヲ積載シテ之ヲ合衆國ニ送達スレハ歸航ハ脚荷ヲ積ミテ歸リ合衆國船ハ其貨物ヲリハブールニ運搬セハ歸途ノ船腹ハ空虚ナリ。此ノ如クニシテ一航海ヲスルニ二艘ノ船舶ヲ用ヒザル可カラザリシナリ、天下悖理、徒勞ナルコト如此キモノアランヤ。此ヲ以テ千八百十五年合衆國ト協約シテ雙方ノ不便ヲ除キ、漸次他國トモ同様ノ協約ヲナスニ至レリ。然リト雖モ此舊航海條例ハ一般ニ

信用セラレ千八百二十四年ニ於テモ尙ホ之ヲ以テ英國海運隆盛ノ尊神ナリト思惟セラレタリ。千八百二十四年ニ於ケル英國ノ國際貿易ニ關スル法規ハ如此シ。吾人ハ英國ニ入り來リタル外國貨物ニシテ一トシテ重キ税ノ課セラレザルモノアルヲ見ズ。又吾レ外國品ヲ買フコトナク我ガ品ヲ外國ニ賣ラントシテアラユル方略ヲ廻ラシタルヲ見ル。總テ是レ一ニ貿易均衡ヲシテ我ニ順ナラシメントスルニ基ケリ。乍併貿易均衡ノ順ナラシメントスル幻想ニ囚ハレタルモノハ唯一英國ノミニアラザルヲ想ハザル可カラズ當時何レノ國ガ此目的ヲ達セントシテ同様ノ方略ヲ採ラザルモノヤアリシ。實ニ多ク賣リテ少ク買ハントスルハ各國ノ競ヒテ望ミタル所、此間ニ立チテ獨リ此理想ヲ達セントスル、其不可能知ル可キナリ。今A點ヨリB點ニ至ル距離ハ十哩ニシテB點ヨリA點ニ至ルハ六哩トナシBハ爲メニ四哩テフ距離ノ利ヲ得ベシト云ハ、誰

カ其無稽ニ驚カザラン、前述ノ事亦此ノ如キノミ。

外國ヨリノ輸入ヲ減少スルコトハ容易ニシテ各國亦是ヲ爲サルモノナシ、是レ唯輸入ヲ禁止スルカ又ハ重税ヲ課セバ其途ヲ杜絶スル易々タレバナリ。乍併如此ハ同時ニ外國ニ向テ輸出スルノ途ヲモ塞グモノナルコトヲ忘ルベカラズ是レ當時ノ政治家ノ解シ兼ネタル所ナリ。各國ハ曖昧ナル貿易均衡説ニ依頼シテ金ノ其國ニ流入スルコトヲ思ヒ、各個人モ亦地金ノ貢ヲ受ケントシテ焦慮至ラザルナカリキ。然レドモ此夢ハ遂ニ實現セラレザリキ又セラルベキモノナラズ今ノ世ノタンタリーハ大杯ヲ擁シテ黄金ノ雨ヲ受ケント待チ設ケタリ、サレド飲ントシテ其唇邊ニ運バレタル大杯ノ中ニハアワレ一片ノ黄金モナカリキ。

輸入ヲ減少スルコトニ於テ成效シタレドモ輸出ヲ増大スルコトニ於テ失敗シタリ、此クシテ

自由貿易ガ總テノモノニ與ヘ得カリシ利益ハ一部ヲ利シ他ノ全部ヲ犠牲ニシタル無益背理ノ企ニヨリテ悉ク蹂躪セラレタリ。

當時ノ英國ハ總テ制限的政策ヲ採リタリ。若シ夫レ保護ノミニヨリテ一國ノ幸福ト繁榮トヲ爲シ能フベクンハ當時ノ英國ハ當ニ隆盛ノ頂點ニアルベキ理ナリ、コハ事實ノ示サバル所、當時ノ國民ノ狀態ハ寔ニ憐ムベキモノナリキ、勞働者ハ低廉ノ勞銀ヲ受ケテ而モ高價ナル麵麴ヲ購ハザル可カラズ、彼等ハ惡法ニ困ミ、又勞働需要ノ急激ナル變化ニ苦ミタリ。於茲乎、政治ニ對スル不平ハ四方ニ起リ、時ニ或ハ暴黨蜂起シ暴力ト血ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ抑壓スルコト難キコトアリキ。然ルニ立法議院ニ於テハ嘗テ怨嗟ノ聲ヲ聞カザリシハ抑モ何ゾヤ。是レ議會ヲ代表シタルモノハ、マコト國民ノ全部ニアラズシテ一階級ノモノニ限ラレタルガ故ナリ。サレバ國民ハ施政方針ノ改革ヲ熱望シタリ政府

ハ之レニ反對シタリ。此事實ハ漸次朝野ノ注意ヲ惹起スルニ至リタレドモ議會ニ於テハヨリ進ミタル財政制度ヲ鼓吹スル者アルニ拘ラズ之レニ耳傾クル者尠カリシハ敢テ奇トスルニ足ラズ即チ喧々噪々タル政治的爭ノ渦中ニ於テハ特ニ此問題ニ就テ研究ヲ積ミタル自由貿易論者ノ聲ハ多ク響ク能ハザリシナリ。

此小數ノ具眼者ニヨリテ提出セラレタル自由貿易ノ原則ハ議會ニ於テ、カンニング、ハスキッソン、ロビンソン及ワールレス等ノ贊成ヲ得タリト雖モ千八百二十三年ノ會期ニ至ル迄ハ其案トナルコトサヘ通過セザリキ。此年ノ一月ニ

ハハスキッソン氏ハ商務省長ニ任命セラレタリ、然ルニ氏ハ千八百三十年ニ於テ不慮ノ最後ヲ遂ゲ自由貿易ノ主義進行ノ爲メニハ非常ナル損失ヲナシタリ。氏ハ千八百二十三年七月議會ニ一案ヲ提出シテ航海條例ニ一大痛棒ヲ加ヘタリ即チ其案トハ輸入稅ト戻稅ハ從前ノ如ク課ス

ベシト雖モ總テノ貨物ハ英船ニテ運ブモ外國船ニテ運ブモ、ソハ制限ヲ設ク可カラズト謂フニアリ。是レ極メテ銳利ノ楔子ヲ打込ミタルモノナリ。寔ニ其論ヤ銳カリシ。

其翌年ニ於テ氏ハ更ニ保護制ニ對シテ大打撃ヲ與ヘタリ。其當時ニ至ル迄外國ノ絹製品ノ輸入ハ全ク禁セラレタリ、之レ稅ノ過重ノ問題ニ非ズシテ全然合衆王國ニ入ルヲ禁セラレタルモノナリ、保護ノ力是レニ及ブナシ。故ニ英國ニ於ケル絹業者ハ密輸入ニヨリテ調和セラレタル無限絶大ノ獨占權者タリキ、ジョセフ、ヒュームハ議會ニ於テ其「絹製、ハンカチーフ」ヲ打擲リ、戲レニ謂テ曰ク『茲ニ一箇ノ外國品ガ御座イマス、之レハ全ク輸入ヲ禁止セラレテ居ル品物デアリマスガ、此不正ナル品物ハ殆ンド總テノ諸君ノボケツツトノ中ニアルノデ御座イマス到底諸君ニ迄ハ禁止ノ力ハ及ビマセン』ト

然レドモ此如利益ヲ與ヘラレ保護セラレタル

這箇ノ製造業ハ如何ニ進歩發展セシヤ。絹製造業者ハ今ハコンベントリ、マツクレスフイー、ルドニアレドモ其當時ハロンドンノスピタルフイー、ルドニ在リキ、而モ首府ニ於テ此區域ガ最も貧困窮迫シ又最も無頼タリシヲ聞カバ呆然タラザル者少カラン。業務ノ不振ニ際シテハ其保護セラレアルニモ拘ラズ直ニ隊伍ヲ組ミ市街ヲ押歩キ以テ施捨ニ訴フルコトスピタルフイー、ルドノ織工ニハ殆ンド尋常事ノ如クナリキ、實ニ暴動ハ彼等ニ向テハ一ノ遊戲ノ如ク考ヘラレタリ。或ル時模様ヲ置キタル「キアラコ」、婦人服用トシテ流行シ始メントスルヲ見ルヤ彼等絹織工等ハ忽チ隊伍ヲナシ綿服ヲ見ルヤ所ノ嫌ナク腐蝕液ヲ撒布シ、甚シキニ至ツテハ之レヲ着用スル者ヲ捕ヘ、之レヲ取り寸斷ニ引裂キタリ、獸的行爲夫レ極マレリ。又或時幾人カノアイヤランド人低廉ノ勞銀ニテ働カン目的ヲ懷キロンドンニ着シタリシガ、彼等絹織工等ハ直チニ群

集シフロック街道ホワイトチアベルニ至リ是等アイヤランド人ガ宿泊セリト想像シタル家ヲ襲撃シタリ、此時ニ於テハ負傷者甚ダ多ク一人ノ死者ヲサヘ出シタリ。見ヨ、此保護ニヨリテアマヤカサレタル放蕩兒ノ狂態！

ハスキッソン氏ハ千八百二十四年三月五日（此時該案ハ提出セラレタリ）絹製品ノ輸入禁止ハ千八百二十六年七月五日限り之ヲ廢止シ又生絹絲ニ就テハ其輸入稅ヲ大ニ輕減シ絹絲ハ夫ヲ半減センコトヲ主張シタリ而シテ氏ハ次ノ如キコトヲ述ベタリ、曰ク 絹絲貿易ニ於テ禁止的輸入稅ヲ課シタルハ、取リモ直サズ英國ノ恥辱ニシテ其效果如何ト謂ハ、斯業ニ就テ吾々ノ隣國ヨリ遙カニ進歩ガ後レタリト云フヨリ外何ノ利益モ無シ、凡ソ一ノ業ニ於テ天才ナルモノ出デ來リテ活動スルニアラザレバ其業ハ必ズ萎靡振ハザルヲ常トス、而シテ禁止的制度ヲ採用スルトキハ其保護セラレタル業ハ他ニ競爭者ナキ

ヲ以テ必ズ安堵シテ熱心ノ度ヲ減ズルニ至ル、然リ而シテ熱心ナラザル者ノ中ヨリ天才ノ出ヅル筈ナキヲ以テ、其業ノ衰運ニ趣クハ當然ノ結果ナリ。是レ吾人ノ實驗シタル所ナリ」ト然リ此舊制度ヲ廢シテ以來英國ノ絹製造業ガ長足ノ進歩ヲナシタルハ皆能ク知ル所ナリ。

其後カンニング、ハスキッスソン等ガ勢力アル閣員タリシ内閣ニ於テ此傾向ヲ帶ビタル施政方針ヲ採リタリト雖モ時ノ狀態ハ終ニ之ヲ不能ナラシメタリ。即チ八百二十五年、千八百二十六年ニハ空前ノ大恐慌起リ英國ニ於ケル永キ苦痛ノ紀念ヲ止メタリ。其原因ハ昨ノモノト同様ニシテ從テ其結果モ變ハルコトナカリキ、即チ千八百二十四―五年ノ非常ナル繁榮ト無謀ノ投機ハ遂ニ千八百二十五―六年ノ財界ノ大破綻ヲ導キ來リタル者ナリ。ロンドンニ於テ、七箇ノ銀行、地方ニ於テハ六十七箇ノ銀行ハ支拂ヲ停止シ、千八百二十六年ニ於ケル破産數ハ實ニ二千

六百餘ニ上リタリト謂フ。國民ハ紙幣ヲ信用セズシテ所謂「金ニ走」リ英蘭銀行ニ於ケル地金ハ百三十萬磅迄ニ減セラレタリ。或者傳ヘテ曰ク此當時英國ハ二十四時間ノ間總テ物々交換ノ狀態ニアリタリト、又勞働者ノ大多數ハ其職ヲ失ヒ慘憺悲痛行キ涉ラザル所ナカリキ。

英國ハ遂ニ此恐慌ヨリ顛脫シ得タリト雖モ未ダ財政方針ノ革新ニ注意ヲ傾クルノ時期ニ到達セザリキ。

(未完)